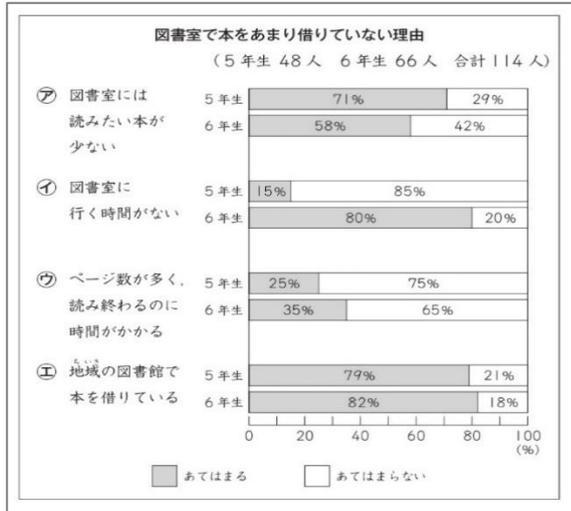


算数

○問題が何を問うているのかを正確に捉えることに苦手さがある



左のグラフを見て、5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の割合の違いが、1番大きい項目を答え、さらにその項目の5年生と6年生の割合を答える問題において、項目だけを解答する児童が多くみられました。「何を問われているのか」「どのように答えればいいのか」という問題の本質を捉えることが苦手な児童が多いようです。

【学校では】

何を解決すればよいのかを明確にした授業や、解決したことをもう一度問題に当てはめてみて確かめる授業を実践していきます。

【ご家庭では】

普段の会話の中で、尋ねたことに的確に答えられているかを意識するとよいと思います。

○問題場面や式などにある数や量の意味を捉えることに苦手さがある

右の問題において、全部のボールを入れるためには少なくとも4箱必要になりますが、3箱と解答する児童が多くみられました。この式にある、23、6、3、5という数量が何を表しているかということが十分に理解できなかったのだと考えられます。

(1) ボールが23個あります。1箱にボールを6個ずつ入れていきます。
全部のボールを箱に入れるには、何箱あればよいかを求めるために、下の計算をしました。

$$23 \div 6 = 3 \text{ あまり } 5$$

全部のボールを箱に入れるには、少なくとも何箱あればよいかを書きましょう。

【学校では】

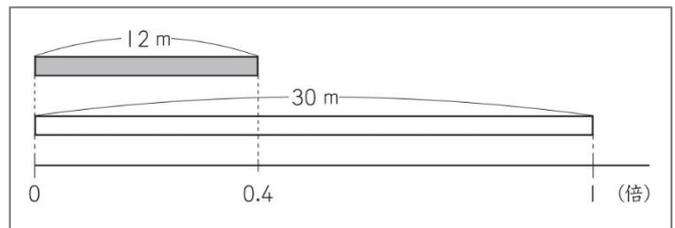
式が複雑になるにつれて式の数量の意味は捉えにくくなります。「これは何の数？」と確認をしながら授業を実践していきます。

【ご家庭では】

問題場面や式を絵や図に表したり、ブロックなどをつかって表現したりすると数量に対する理解が深めていけると思います。

○「倍」の理解に苦手さがある

左のグラフにあるように、30mを1としたときに12mが0.4にあたるわけを考える問題です。「○を1とみたとき、△は□にあたる」という文があったとき、□は割合、つまり倍のことを表しています。



割合は5年生で学習する難しい単元だ、というイメージがありますが、実は2年生から学習をしている内容なのです。

【学校では】

低学年から「倍」「あたり」という表現に慣れていけるように授業を実践していきます。

【ご家庭では】

ポイント○倍、手のひら2こ分、などの倍の表現や、「これを1とすると」という割合の基礎となる表現を意識的に使っていただけると倍に対する抵抗がなくなると思います。

児童質問紙

○1日にテレビゲーム（コンピュータ，スマートフォン等を含む）をする時間が増えている

毎日、同じくらいの時刻に寝たり、起きたりという基本的な生活習慣は身に付いている児童は多いものの、1日に4時間以上テレビゲームをしている児童の割合が高くなっています。また、児童の半数以上が2時間以上テレビゲームをしています。コロナ禍ということもあり、お家での時間が増えたこともその一因であるかと思えます。

【学校では】

健康教育の一環として、学活の時間等をもちいてテレビゲームの影響や、そこから派生するSNS等の情報モラル・リテラシーの指導を工夫していきます。

【ご家庭では】

「家の人と約束したことが守れていますか」という質問に対しては、半数以上の児童が守れていると回答をしています。見届けが可能な範囲なら大丈夫と思いますが、ゲームに依存している、生活のリズムが崩れてきた等の症状がありましたら、今一度ご家庭でのルールを見直していただきたいと思えます。

○社会の一員としての意識がやや弱い傾向にある

「自分にはよいところがあると思えますか」「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対しては比較的前向きな回答をしている児童が多い一方、「人の役に立つ人間になりたいと思えますか」という質問に対してはやや後ろ向きな回答が多かったです。誰かの役に立つ、社会貢献をすることは、人間の大きな原動力であると考えます。他者とのつながりが希薄になっているといわれている今ですが、これからの幸せな人生のために、自分が社会の一員であることの意識を高めていきたいです。

【学校では】

総合的な学習の時間や各教科において、学校の外に目を向ける活動や、地域の人や社会を支えてくださっている人とつながる活動を仕組んでいきます。

【ご家庭では】

テレビやインターネットニュースや、地域の取組等について話をする時間をつくっていただきたいです。小学校の時期の経験はとても貴重です。今の状況では難しいこともあるかもしれませんが、たくさん経験をさせていただきたいと思えます。

○言葉で表す、話し合うことを苦手と感じている児童が増えている

「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」という質問に対し、苦手と感じている児童が多くなっています。また、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか」という質問に対して、否定的な回答をする児童もいました。話すことは学力の向上には欠かせませんし、豊かな人間性に向かうためには話し合うことは欠かせません。他者と言葉を交わすことで多くのことを学び、成長していきます。

【学校では】

話す機会を増やすだけでなく、どのように話したらいいのかというスキルの指導も行います。

【ご家庭では】

お子様の価値観、考えを聴き、話し合ってみる時間をつくってみてください。何かを決める話し合いではなく、お互いの考えを理解する話し合いを増やしていただきたいと思えます。